

(2) パルプ・紙工業

17 / 16 18 / 17
：天気図マーク；

伸び率10%以上 ● 伸び率 0～ 10%
伸び率 0～10% 伸び率 10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要

平成17年度の出荷は、製紙用パルプが10,780千トンで前年度比1.0%増、紙が18,923千トンで同0.8%増と2年連続プラス、板紙は12,138千トンで同0.7%増となり、5年ぶりにプラスとなった。紙は、チラシ・カタログなどに使用される塗工紙（紙の35%を占める）を中心に堅調に推移した。また、板紙も、加工食品向け等の好調に支えられ微増となった。

(2) 生産・設備稼働

平成17年度の実生産は、出荷動向を反映して、製紙用パルプが10,762千トンで前年度比0.8%増、紙が18,983千トンで同0.8%増と2年連続プラス、板紙も12,085千トンで同0.3%増と3年ぶりにプラスとなった。

平成17年度の実設備能力及び稼働率は、紙・パルプ・プラスチック・ゴム製品統計月報の日産能力から推計すると、パルプは14,695千トン、73.2%、紙は20,338千トン、93.3%、板紙は12,261千トン、98.6%となった。

(3) 企業収益

平成17年度の出荷量は微増。価格は、板紙は15年度後半に回復した水準が持続されたが、紙は需給の不均衡から印刷用紙が、また家庭紙は拡販政策から年度後半に軟化したことや、年度を通じて原燃料コストの高騰が続いたことから、設備の合理化・省力投資や人員、物流などの合理化によるコスト削減では補いきれていない。その結果、大手7社合計の売上高は前年度比0.4%の微増となったものの、経常利益は前年度比13.5%の減となった。

平成18年度は、引き続き、原燃料コストの高騰による影響等が懸念されるものの、紙・板紙ともに原燃料コスト高騰分をある程度価格転嫁できると見られていることや引き続きコスト削減に努めることにより、売上高は3.9%、経常利益は4.1%程度の増収増益になる見込みである。

(4) 財務

各企業は、大型投資の抑制により有利子負債が圧縮され、また人員合理化、エネルギー・コスト削減投資、非効率設備の停・休止、物流・販売の合理化といった、コスト削減と生産効率の向上を目指した財務体質の強化を図っている。

2. 設備投資動向

(1) これまでの設備投資の推移

平成10年度、11年度と、紙・板紙の需要減や設備過剰感の高まり、業績の悪化から大幅な減少を続けていた設備投資額は、12年度から13年度にかけて、前年度まで続いた落ち込みの反動で若干回復したものの、14年度は有利子負債圧縮のための大

型投資抑制の動きにより、大幅に減少した。15年度も、引き続き有利子負債圧縮のための大型投資抑制の動きは続いたものの、既存設備の合理化投資やエネルギーコスト改善投資などにより回復した。16年度は再び落ち込んだが、石炭、原油価格の高騰を背景に「省エネ・新エネ」は大幅に構成比を高めた。17年度の設備投資額は既存設備の合理化投資や省エネ投資などにより、実績見込みベースで2,062億円、前年度比23.2%の増加となる見込み。

(2)平成18年度の設備投資計画

平成18年度の設備投資計画額は、前年度比23.9%増の2,540億円（17-18年度共通回答企業ベース）となっている。国内需要は引き続き微増に止まると見られる中で、原燃料コストの高騰、製品価格の軟化により悪化した企業収益の改善を図るため、生産性の向上、エネルギーコストの削減、品質改善等の競争力強化に向けた投資に取り組んでいる。これらを反映して「更新、維持・補修」「合理化・省力化」「省エネ・新エネ」が構成比を高め、これらで全体の約6割を占める。また、「生産能力増強」への投資額は対前年度比11%増と近年では大きなものとなっているが、これは数社が国際競争力の強化等に向けた抄紙機等の大型投資を計画し始めた影響である。

3．長期資金調達・運用動向

平成17年度の設備投資所要資金額（16 - 17年度共通回答企業ベース）は、前年度比16%増の1,782億円で、これは減価償却費を中心とする内部資金の62%に相当する。18年度の設備投資所要資金（17 - 18年度共通回答企業ベース）は2,493億円で、53%増となる見込み。内部資金に対する比率は99%で、内部資金に匹敵する計画となっている。また長期資金の調達は、これまでの借入金返済により有利子負債が軽減されて来たことに加え、新たに競争力強化に向けた省エネ・新エネ投資や抄紙機等の大型化・近代化投資に取り組む企業も出始めたことを背景に、外部調達額を増加させた結果、総額に占める内部資金の比率は、17年度の128%から18年度は65%に低下する見込み。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

